



News letter

2017年3月 Vol.7



科学技術人材育成費補助事業 「女性研究者研究活動支援事業（連携型）」 （平成26年度～平成28年度）が終了します



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（連携型）」において、徳島大学を代表機関、香川大学、愛媛大学及び高知大学を共同実施機関とする4大学に、鳴門教育大学を加え、「四国5大学連携による女性研究者活躍推進コンソーシアム形成事業」を実施しました。

ごあいさつ

高知大学 脇口 宏 学長

女性研究者の活躍は、男女共同参画社会の実現において、極めて重要な位置づけにあります。これまで「四国5大学女性研究者連携活躍推進コンソーシアム」は、四国国立大学の女性管理職の登用増、女性研究者の採用増と退職抑制、研究力向上などを目指して参りました。

以前、マスコミ関係の女性達から、「育児は非生産的な仕事です」と言われ大変驚いたことがありました。産休・育休が、女性のキャリア形成に大きなマイナス点を残す現状では、出生率の向上は期待できないでしょう。また、少子化の進展は国力の低下・亡国に繋がりますので、将来、女性の社会進出に対する批判的意見が、息を吹き返すことさえ危惧されます。

子どもは、夢であり、未来の労働力、納税者、さらには社会発展の牽引者でもある“国の宝”です。また、企業の発展は、社会の発展も目指すものであります。女性が社会で活躍するためには、「育児は家族全員と地域社会で“国の宝”を育てること」という文化の復活と体制の充実・強化が必要です。育児は国の牽引者を育成する業務

でありますから、産休・育休を取得することへの理解と支援、高い評価とともに、復職後の処遇においても不利にならないよう配慮するべきでしょう。そのためには、育休中も業務に関する知識と技能を向上させる支援体制も必要です。

国立大学が率先して女性の活躍を推進することが、我が国における女性の活躍の呼び水となるとともに、我が国の少子化を食い止める強力な手段となることを祈念しております。



全員参加型男女共同参画の推進を！

高知大学 男女共同参画担当理事 宮井 千恵

平成 28 年 4 月から高知大学男女共同参画担当理事の任に就かせていただき、もうすぐ 1 年が過ぎようとしています。

平成 11 年 6 月 23 日に男女共同参画推進基本法が施行され、少しずつ社会に浸透し、最近の 5 年間で急速に浸透してきたように思います。男女共同参画がこれほどまでに最重要課題となったのは、我が国が世界に類を見ない超少子高齢社会に突入したこと、さらに、我が国の持つ独特の文化が、男女平等の実現を困難にしてきたことが背景にあると思います。

顧みれば、平成 8 年に「男女共同参画 2000 年プラン」が策定され、その後、男女雇用機会均等法の制定、ワーク・ライフ・バランス、ダイバーシティ（多様性）という考え方、そして、直近では、女性活躍推進法、ニッポン一億総活躍プランが閣議決定され、取り組みが加速されています。

私は、今まで、女性の多い職場で勤務していましたので、ワーク・ライフ・バランスや母性保護等の施策は当然のことと受け止めていますが、その実現は、簡単なことではなく、職場の上司、同僚、夫（妻）や家族の理解など、本人を取り巻くすべての人々の理解と行動力がなくては不可能であることを実感してきました。

高知大学は、すでに、男女共同参画に対する基盤はできあがっていますので、今まで進めてきた「カイゼン」をしっかりと定着させ、本学が取り組んでいる事業、行動計画を着実に進め発展させていくことが重要です。

しかし、男女共同参画組織の実現は、言葉でいって簡単なことではありません。今後は、今までの実績に加えて、一人ひとりが本学の取り組みを理解し行動変容につなげ、生き生きと能力を発揮できるような全員参加型の組織づくり、まさに『しあわせぶたん』の実現を目指したいものです。



高知大学は高知県次世代育成支援企業認証を更新しました

「高知県次世代育成支援企業認証制度」は、男女が共に働きやすく、仕事と家庭の両立の推進など子育てしやすい職場環境づくりに積極的に取り組んでいる企業を、高知県が認証する制度です。子育て支援などの取組が評価されて高知大学はこのたび高知県次世代育成支援企業認証を更新しました。



男女共同参画推進室はオープンキャンパスで、全学企画として「男女共同参画できらめく☆未来コーナー」を開設しました



平成 28 年 8 月 6 日、7 日のオープンキャンパスに男女共同参画では、全学企画の一環として「男女共同参画できらめく☆未来コーナー」を開催しました。高知大学の各学部の女性研究者を紹介し、研究者を目指した理由などが書かれたロールモデル集を配布しました。研究者を目指している受験生がコーナーを訪れて興味深そうにロールモデル集を眺めていました。

ロールモデル講演会（地域げんき版）を開催しました

「やりたい」「やったほうがいい」思ったことを行動に。

動かなければ、思いつかなかったのと同じ。それはもったいない！

平成 28 年 6 月 27 日に西村優美氏（NPO 砂浜美術館）を招いて、ロールモデル講演会（地域げんき版）を開催しました。講演からは、青年海外協力隊員として派遣されたモンゴルでの生活の様子、小学校教員としての活動の工夫、興奮、何より「今」を楽しんでいる様子が伝わってきました。西村さんが「必要なものはそろっている、ムダなものはない」と感じたモンゴルの生活から得た「変わらないことのなかの豊かさ」についてのお話しでは、参加者からも「これは持続可能な社会の思想として重要な視点」と多くの賛同の声がありました。国際協力という大上段に構えるのではなく、西村さんにとってはモンゴルも黒潮町も、自分が自分事としてかかわった場所と言う意味で同じ。このスタンスが西村さんの自然体を醸し出しているようです。



ロールモデル講演会「森の仕事を目指して」を開催しました

森の仕事を目指して～女性林業技術者の奮闘記



平成 28 年 7 月 26 日に塚本愛子氏（高知県林業振興・環境部森づくり推進課長）を招いて、ロールモデル講演会を開催しました。塚本課長は高知大学農学部林学科卒業後、女性林業技術職員第一号として高知県に入庁しました。講演会では、高知県の森林・林業施策についてお話いただきました。高知県の林業職に占める女性の割合は、次第に増加しています。これから高知県庁を受験される方へは、「林業と聞くと男性の職場というイメージが強いと思いますが、最近は女性職員も増えてきており、男女関係なく働ける楽しい職場だと思えます」というメッセージを頂きました。異動や転勤、結婚や出産があり、人生は計画通りに進むとは限りません。しかし、新しいチャンスは必ずやってくるという楽観性や、学び探求する原動力である好奇心、失敗したとしても続けようとする持続性といったコツさえつかめば、やりたい仕事にかえることができる、とご自身の経験からお話されました。

科研費獲得の方法とコツセミナー 2016 を開催しました

平成 28 年 9 月 14 日に児島将康氏（久留米大学分子生命科学研究所教授）を招いて、科研費獲得のためのセミナーを開催しました。初めに、執印理事からご挨拶がありました。自身の研究を分かりやすく相手にうったえかけるように申請書を書くのは難しいことです。ぜひとも、児島先生の素晴らしいご講演を聞いて科研費を獲得していただきたいと思います。次に男女共同参画推進室より、安全・安心機構小島准教授から「科研費と女性研究者支援」について説明しました。児島先生は、科研費申請書の書き方について、実際の申請書を例にしながら分かりやすくご講演いただきました。強調文字の使い方や、図の入れ方、各項目のポイントなど、申請書を作成する際の実践的な話を聞くことができました。



共通教育科目「男女共同参画社会を考える」を実施しました

平成 28 年 9 月 26 – 28 日に共通教育科目「男女共同参画社会を考える」を実施し、156 人が履修しました。

9月26日

- 1限 オリエンテーションと男女共同参画の基本 (人文社会科学部 中川香代)
- 2限 大学のなかの男女共同参画 (安全・安心機構 廣瀬淳一)
- 3限~4限 笑って考える男女共同参画 (東京大学大学院教授 瀬地山角氏)
- 5限 南の島の男女共同参画-パラオー (安全・安心機構 廣瀬淳一)



9月27日

- 1限 哲学で学ぶ男女共同参画 (安全・安心機構 小島優子)
- 2限 家族から見た男女共同参画 (教育学部 森田美佐)
- 3限 認知症サポーター養成講座 (佐藤政子氏 認知症の人と家族の会高知県支部世話人代表、田村良子氏 高知市健康増進課)
- 4限 育児から見た男女共同参画 (人文社会科学部 岩佐和幸)
- 5限 法律から見た男女共同参画 (教育学部 藤本富一)

9月28日

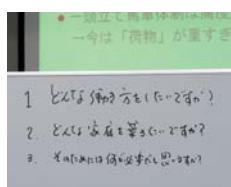
- 1限~4限 キャリアデザイン講座 (京都女子大学宗教・文化研究所客員教授 槇村久子氏)
- 5限 映像から見た男女共同参画 (人文社会科学部 中川香代)

「笑って考える男女共同参画」講演会 東京大学大学院 瀬地山角教授

平成 28 年 9 月 26 日に、「笑って考える男女共同参画」講演会を開催しました。このセミナーは男女共同参画推進室とこうち男女共同参画センター「ソーレ」が協同で企画し、共通教育「男女共同参画社会を考える」の集中講義と共同開催しました。

瀬地山先生から、「笑って考える男女共同参画」の講演がありました。男性の家事・育児時間が少ないなかで、男子にこそ家事能力が求められています。味の素とサッポロ一番の CM を例にとり、家族の中で父親と母親がどのように描かれているかについて提示されました。また、男性の自殺が多いことから、「男性問題」についてもお話がありました。男女共同参画に関して、日本は国際的には後進国であるので、女性と男性で新しい社会を構想しようというのが、ご講演の内容でした。

講演の後は、講義の内容について学生がグループワークをして、考えました。テーマは、1. どんな働き方をしたいですか、2. どんな家庭を築きたいですか、3. そのためには何が必要だと思いますか、です。学生が自分の問題として自分の生き方について考えて、男女共同参画に触れるきっかけとなりました。



第7回ワーク・ライフ・バランス講座

「認知症サポーター養成講座～あなたも認知症サポーターに！」



講師 佐藤政子 氏（認知症の人と家族の会高知県支部
世話人代表）

田村良子 氏（高知市健康福祉部保健所健康増進課）

平成 28 年 9 月 27 日に、高知市の協力で認知症サポーター養成講座を開催しました。認知症は誰でも起こりうる脳の病気です。

65 歳以上では 1 割ほどが認知症を患っていると言われています。認知症サポーターは、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、支援する応援者です。認知症サポーターになると、地域で認知症の方に接するときに、認知症の方へ適切な対応をとることができるようになります。認知症サポーター制度は、厚生労働省が平成 16 年度に導入しました。受講者にはサポーターの証となる「オレンジリング」が渡されます。

今回の講座は、共通教育科目「男女共同参画社会を考える」の履修生が参加しました。講座では、認知症とは何か、認知症の方へどのように対応すればよいのか、サポーターとして何ができるかを学びました。「認知症の人と家族の会高知県支部」世話人代表の佐藤政子氏に、認知症を患った実母の介護経験をもとに対応方法を講演してもらいました。

高知市の田村良子氏からは、認知症とはどのような状態であるのか、認知症の人にはどのように対応したらよいのかについて、お話がありました。

男女共同参画のキャリア・デザイン講座

「これからの自分をデザインする」

講師① 榎村 久子 氏

（京都女子大学宗教・文化研究所客員教授）

講師② 松岡 良美 氏（菊水酒造企画課長）

講師③ 武樋 泰臣 氏

（株式会社ファースト・コラボレーション社長）

講師④ 嶋崎 裕也 氏（株式会社アースエイド社長）



平成 28 年 9 月 28 日に男女共同参画のキャリアデザイン講座を開催しました。この企画はこうち男女共同参画センター「ソーレ」の協力によって実現しました。初めに、榎村先生から男女共同参画の視点とキャリア形成についての講義を聞いた後、第 2 限には菊水酒造の松岡良美企画課長、不動産業界の常識を打ち破り、働きやすい職場環境を実現している株式会社ファースト・コラボレーションの武樋泰臣社長、自動車のテストドライバーから高知で 6 次産業の商品開発に取り組んでいる株式会社アースエイドの嶋崎裕也社長からそれぞれ経験に基づく話をうかがいました。学生は人生の諸先輩の話に真剣に耳を傾けていました。

第 3 限目と第 4 限目には、榎村先生に提示された課題をもとにグループワークを行い、その成果を全体会で共有しました。集中講義「男女共同参画社会を考える」の最終日であったため、それまで学生が学んだ講義内容を共通の土台として対話が進み、実りある時間となりました。

共同研究プロジェクト事業を実施しました

「女性研究者研究活動支援事業（連携型）」では、連携機関（徳島大学、香川大学、愛媛大学及び高知大学）に所属する女性研究者が研究代表者となり、代表者と異なる連携機関の女性研究者と共同で行う学術研究プロジェクトに対して、研究費を支援しました。これにより共同研究の円滑な実施を促し、四国地域の女性研究者の研究力向上を図ることを目的としています。平成 28 年度、高知大学では以下の 3 件の共同研究プロジェクトに対して、25 万円の研究費を支援しました。

研究代表者 高知大学海洋コア総合研究センター 氏家 由利香 准教授
研究 題目 四国南西海域における有殻プランクトンの多様性および生態調査
共同研究者 1 愛媛大学理工学研究科 数理物質科学専攻・地球進化学コース 堀 利栄 教授
共同研究者 2 高知大学海洋コア総合研究センター 萩野 恭子 客員講師

研究代表者 高知大学大学教育創造センター 杉田 郁代 特任准教授
研究 題目 「身近なデータを活用した教育改善」に関するSD研修プログラムモデルの構築
共同研究者 1 愛媛大学教育企画室 清水 栄子 講師

研究代表者 高知大学医学部附属病院次世代医療創造センター 田井 麻美 特任講師
研究 題目 実践的モニタリング教育プログラムの構築～四国モニタリングメソッド～
共同研究者 1 徳島大学病院 臨床試験管理センター 片島 るみ 助教
共同研究者 2 愛媛大学医学部附属病院臨床研究支援センター 山下 梨沙子 主任薬剤師
共同研究者 3 愛媛大学医学部附属病院臨床研究支援センター 土居 あかね 臨床検査技師
共同研究者 4 愛媛大学医学部附属病院臨床研究支援センター 宮脇 和美 看護師
共同研究者 5 香川大学医学部附属病院 臨床研究支援センター 鈴木 聖 薬剤師
共同研究者 6 高知大学医学部附属病院 次世代医療創造センター 二宮 仁志 特任准教授
共同研究者 7 神奈川県立がんセンター 高知大学医学部次世代医療創造センター 阪口 昌彦 非常勤助教

平成 28 年度第 3 回四国 5 大学連携女性研究者研究交流発表会を開催しました

平成 29 年 2 月 3 日～4 日に、平成 28 年度第 3 回四国 5 大学連携女性研究者研究交流発表会を開催しました。共同研究プロジェクトに採択された女性研究者たちが、研究の成果発表を行いました。さまざまな分野の研究者が一堂に会することによって、それぞれの研究を発展させるためのきっかけを作りました。



四国 5 大学連携メンター研修を開催しました



平成 28 年 9 月 12 日に、四国 5 大学連携メンター研修を開催しました。徳島大学会場から、愛媛大学・香川大学・高知大学会場にテレビ中継することによって、四国 5 大学におけるメンターとメンティーがディスカッションを行いました。高知大学からは、メンターとして菅沼成文副学長（国際連携担当）、メンティーとして安光ラヴェル香保子特任助教（医学部）が登壇し、メンターとメンティーの関係について説明がありました。

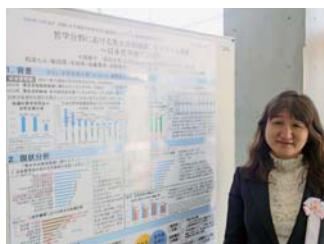


四国 5 大学連携女性研究者活躍推進シンポジウム 2016

第 8 回中国四国男女共同参画シンポジウム共同開催

「地域貢献！世界トップレベルの女性研究者誕生を目指して」を開催しました

平成 28 年 11 月 18 日に、徳島大学で四国 5 大学連携女性研究者活躍推進シンポジウム 2016 を開催しました。主催は、四国 5 大学男女共同参画推進連絡協議会の徳島大学・鳴門教育大学・香川大学・愛媛大学・高知大学です。第 8 回中国四国男女共同参画シンポジウムを共同開催し、徳島大学が担当しました。高知大学は、高知大学における男女共同参画の取組について廣瀬淳一男女共同参画推進室長がポスターを紹介しました。



ポスター発表では、高知大学人文社会科学系人文社会科学部門の小島優子准教授が、「哲学分野における男女共同参画と若手研究者育成～日本哲学会の取組から～」について発表しました。日本哲学会における男女共同参画・若手研究者支援ワーキンググループの取組について説明しました。

高知大学医療学系基礎医学部門微生物学講座の橋田裕美子助教は、「皮膚に常在するウイルスのエコロジー」についてポスター発表をしました。皮膚に常在しているさまざまな微生物についての、実体解析調査を行い、その結果からウイルスの検出率と年齢の関係について分析を行いました。



アンガーマネジメント・セミナー



平成 28 年 12 月 16 日に、アンガーマネジメント・セミナー『ストレスをエネルギーに～アンガーマネジメントの基本的な考え方と具体的な対処法』を開催しました。講師に澤田章子氏（オフィス・インテグラル株式会社代表 臨床心理士）を迎えて、認知行動療法を応用したアンガーマネジメントの学習に取り組みました。

「アンガーマネジメントとは、怒る必要がある時には上手に怒り、怒る必要のない時には怒らないようになること」です。多くの怒りの原因は、自分と相手の「べき」の違いから発生します。それは、私が考える常識から導き出される「べき」の基準と、相手の常識から導かれる「べき」の基準に乖離があるにもかかわらず、お互いが自分の基準を相手に当てはめてしまうからです。アンガーマネジメントでは、相手を打ち負かそうとするのではなく、わかってもらうことをゴールに据えて、おたがいの「べき」に関心を向けながらストレスの整理を行う行動的対処が大切であることを学びました。



四国 5 大学連携 e-ラーニングについて



「四国 5 大学連携女性研究者活躍推進コンソーシアム形成事業」のホームページでは、四国 5 大学で開催したセミナーを、高知大学の学内から e-ラーニングで視聴することができます。過去に開催された国際論文投稿セミナーや、研究ノート活用法、アサーショントレーニング・セミナー、男女共同参画シンポジウムの映像などを視聴することができます。期間限定で公開されていますので、この機会にぜひご利用ください。



<http://www.awasapo.tokushima-u.ac.jp/shikoku/e-learning/index.html>



お知らせ

高知大学は、休日の入試・センター試験・オープンキャンパス時に託児を実施しています

高知大学では、オープンキャンパス、大学入試センター試験、休日に大学入学試験が実施される際に、教職員を対象とした託児室を開設しています。詳細は、高知大学学内グループウェア掲示板をご覧ください。

研究支援員制度について

高知大学では、大学教員および研究員のうち、①～③のいずれかに該当する者を対象として研究支援員制度を実施しております。利用者の募集は前期については1～2月頃、後期については7～8月頃に行っていますので学内グループウェア掲示板をご覧ください。

①妊娠中の者（配偶者の妊娠を含む）

②小学校6年生までの子を養育する者

※男性は（a）配偶者が大学又は独立行政法人に所属する研究者である者、あるいは（b）単身で育児している場合に限る。

③地方自治体から要介護認定を受けている配偶者、子、父母又は配偶者の父母を介護する者。

男女を問いません。

両立コンシェルジュデスクについて

両立コンシェルジュデスクは、高知大学の育児・介護等と仕事の両立相談窓口です。仕事との両立のために悩んでいることや困っていることがあるとき、育児情報や介護情報が欲しいときにご相談ください。岡豊キャンパスや物部キャンパスへの出張相談にも対応します。

相談専用メールアドレス concierge@kochi-u.ac.jp

解説

ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

男女雇用機会均等法は、雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保を図ることを目的としています。ただし、第8条「女性労働者に係る措置に関する特例」では、「事業主が、雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保の支障となっている事情を改善することを目的として女性労働者に関して行う措置」（ポジティブ・アクション）が認められています。このために、男女間格差の改善のために女性のみを対象とする採用や配置は、法違反にはなりません。女性労働者の割合が4割を下回っている場合には、男女の均等な機会・待遇に格差が存在していると判断されます。

高知大学男女共同参画推進室 しあわせふんたん

〒780-8520 高知市曙町二丁目5番1号 朝倉キャンパス 総合研究棟3階

TEL：088-888-8022

FAX：088-888-8023

E-Mail: sankaku@kochi-u.ac.jp